

第6日

令和8年6月16日（火）

午前9時30分開議

○議長（小島清人君） 皆様、おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は17名で、会議は成立いたします。

議事日程表をお開きください。本日の議事日程については、タブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、一般質問を行います。

質問通告者及び順位は、タブレットに掲載のとおりであります。申合せにより、1人当たりの質問時間は、答弁時間を含めて70分以内となっております。御了承願います。

一般質問通告書をお開きください。

それでは最初に、13番浅尾静二議員の質問を許可します。13番浅尾静二議員。

（13番浅尾静二君登壇）

○13番（浅尾静二君） 皆様、おはようございます。13番の浅尾静二でございます。本日は、早朝より多くの皆様に議会傍聴に来ていただきまして、誠にありがとうございます。感謝申し上げます。このたび、14名の議員が行う中島新市長の所信表明に対する一般質問において一番くじを引き当て、最初に質問の機会をいただきました。まずもって、この場をお与えいただきましたことに対しまして、深くお礼を申し上げます。

中島秀樹市長、当選誠におめでとうございます。あの逆風の中、1人で街頭に立ち、奥様と2人、二人三脚でよく頑張っておられました。3月議会するとき、私に本当に打たれ強くなりましたよと、強くなりましたと笑顔でおっしゃったことが強く印象に残っております。今後とも朝倉市発展のため、しっかり頑張りたいと思います。

また、新市長が誕生して最初の議会は例年6月定例会でありましたが、これまでは開会日に市長提案理由説明の中で所信表明を述べられておりましたが、今回、施政方針、所信表明を一般質問の通告前に提出いただいたことで、所信表明に対する一般質問ができることに対し、議会の一員として感謝を申し上げます。これは、市議会基本条例が掲げる議会と執行機関の緊張ある協働、議会活性化、一般質問の意義の尊重という理念をよく理解された上での御判断であり、その姿勢については高く評価するものであります。

さて、中島市長は今回の市長選挙において、変化・刷新が必要だ、失ってしまうものがある、守れない未来がある、市民のもとに政治を取り戻す、確実に朝倉を変える、と、SNSを通じて強く訴えられてこられました。しかし、これらの言葉が具体的に何を指すのか、市民にとっても議会にとっても必ずしも明確ではありません。何を変えようとしているのか、何を守れない未来なのか、市民のもとに政治を取り戻すとはどういう市政運営を意味するのか。

私は、柴山議員とも一緒ですが、中島市長とは平成19年の朝倉市議会議員初当選以来19年間同期の市議会議員として中島市長の政治姿勢、議会での発言、行動を間近で見してきました。その経験から、今回の選挙戦における市長の言動には、これまでとは異なる印象を受けたことを率直に申し上げなければなりません。選挙には、戦略や戦術がある。勝つための訴え方がある。その一つがSNSであります。それ自体は当然のことです。しかし、政治家として、人として、道理、倫理、正しい道を外してはならないという点は、これまで中島市長御自身が議員である頃より最も大切にされてきた姿勢であったと、私は理解してきました。

その観点から申し上げますと、今回、外資系企業によるマンション建設の問題を選挙の主要争点としてSNS等で強く訴えられた姿には、正直申し上げて強い違和感を覚えました。この疑問が解消されなければ、私はこれまでのように中島市長と政策論争を行うことが難しいと感じています。もちろん、選挙で選ばれた新市長と議会は、互いに切磋琢磨し市民のために働かなければなりません。新たなステージが始まる今こそ、市長の政治姿勢を明確に伺い、市政運営の基本となる考え方を共有しておく必要があります。

以上の理由から、市長が選挙で訴えられた言葉の真意、そして政治姿勢について、この一般質問の場で明確にお答えいただくよう希望いたします。

それでは、質問席より質問させていただきます。

(13番浅尾静二君降壇)

○議長（小島清人君） 13番浅尾静二議員。

○13番（浅尾静二君） それでは、通告書に従い一般質問をさせていただきます。

まず、市長の政治姿勢と情報発信の在り方についてでございます。

まず、確認したいことがあります。告示前に、ピーポート甘木で行われたあさくら、Funという団体主催の市長選挙の公開討論会の件でございます。当初、中島・林両候補が協議の上、公開討論会の不参加を決められていたと聞いていました。これは事実でしょうか。イエスかノーでお答えいただきたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 公開討論会につきましては、イエスかノーかということ、そのちょうど中間ぐらいになると思います。どういうお考えですかということを前林市長のほうからお尋ねはありました。協議して決めたのではなくて、お互いの結果、考えをそれぞれ出し合ったというふうに考えております。当初、私も出るつもりはなかったというのが正直なところです。

○議長（小島清人君） 13番浅尾静二議員。

○13番（浅尾静二君） それでは、どういう理由で参加をしないとされていたのでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 主催団体のあさくら、Fun、今まででしたら、私の記憶では商

工会議所とか青年会議所とかが主催をしていたんですけれども、初めて聞く団体でしたので、この団体は一体どういう団体なんだろうということで、少し心配があったというのが本当のところですよ。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 私もはたから見て、そういうふう感じておりました。普段、常識的に考えますと、公開討論会はやはり選挙の争点なり明らかにするものでございまして、これまでは、先ほど言われましたように青年会議所さんの主催であつたり、そういうのが通例でございました。今回、あさくら、Funさんの主催ということで、どのような趣旨なのかが分からないというふうなことだったと思っております。中島市長が一人の、結局ああいう場になってしまったことは、非常に私も残念に思っております。

中島市長は、今回の朝倉市長選挙の争点の一つが外資系企業のマンション問題で、建設に断固反対であるとSNSで強く訴えていました。昨年の12月議会の一般質問では、数名の議員がマンション問題に関して、住民の皆様と正しい情報を共有ができるようにと一般質問を行いました。そのときの内容を簡単に時系列で言いますと、昨年9月16日から、市内外から市役所にマンション問題に関し苦情の電話などが1,200件以上殺到したと聞いております。その後、福岡県は、県知事が建設を許可したという事実と反する書き込みがSNSで拡散されたため、マンション建設の開発許可は出していないという異例の会見を開かれました。その後もマンション建設が進行中であるかのような偽情報がSNS上で発信され、市民の不安をあおっておりました。11月7日の西日本新聞で、マンション建設予定地を所有する企業のオーナーが、土地開発に協力する話は白紙に戻すと発言されました。このことは新聞報道もされました。マンション建設の反対デモや、11月27日、朝倉市長宛にマンション建設計画に関する住民説明会開催を求める朝倉市民2,395名の署名が提出されました。3月議会においても、マンション建設に係る請願書が市議会に提出され、福岡県あるいは福岡県議会へ市議会から意見書も提出しております。そして、今年の3月27日に運営会社が市に計画が進むことは絶対ないと明言をしてきております。市議会としても、できるだけ詳細な情報を市民へ情報提供することを執行部と共有しておりました。その後は、マンション問題は、市民の間では沈静化をしていた状況だったと思っております。そして、選挙も近まった3月に出された中島候補、林候補の選挙マニフェストには、マンション問題についての記載はございませんでした。

中島市長は、選挙に入り、突然、外資系企業のマンション建設には断固反対と訴えをされました。なぜ、選挙戦が始まって、今さら強く断固反対と訴えたのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 選挙戦が始まりまして、選挙カーに乗りまして遊説をしてまいります。遊説先で街頭に出ている方と握手をして言葉を交わします。そのとき多かった言葉

が、あなたは外資系マンション問題については賛成なんだろうということを、たくさんの方から言われました。それは、多分SNSで、私が賛成をしているというような投稿もありましたので、それが影響しているんだと思いました。そして、私が一番強く感じたのは、市民の中に、外資系マンションについての不安が大きくまだ残っていると、そういうことを感じました。

ですから、私はまず自分が賛成はしていないと、コミュニティを壊してしまうような大きな計画でしたので、私はどちらかというと反対の立場を取ってましたけれども、反対を、地元ではそういった話はしておりましたが、公にしないといけないと。候補者として、それは言わなければならないと思いました。そして、市民の皆様に、市長候補者として説明の責任と情報公開の義務があるというふうに感じまして、選挙戦に入りまして、そのことを話をさせてもらいました。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） まだまだ中島市長が選挙のときに回られたときに、そういった話をたくさん聞かれたというのは、事実だろうというふうには思いますが、しかしながら、あれだけ先ほど申しましたように、12月議会、3月議会それぞれの中で、もう市も新聞報道もあれだけ発信してきた中で、いまだにそういった声があるのかというのは、私は周りではあんまりそういうふうな声は聞かなかったというのが、先ほど申し上げたことでございます。

そして、市長が今言われました、もっと丁寧な説明責任が必要だったと、行政からの情報発信も必要だったということもよく分かります。実際、そういった請願書も出ておりましたし、そういう署名もあつたのも事実でございます。

しかしながら、この住民説明会について、開発事業者でない市が開催した場合、回答することができず企業に確認するしか回答ができないということは、もう従前からそういうことは私どもの中でも議論をしておりました。

それでは、そもそも誰に対してマンション建設は断固反対だと言っていたのでしょうか。前市長、それから執行部、市議会でも計画を推進していた人は誰一人いません。断固反対と誰に対して言っていたのか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 市議会の皆様が、賛成の方がいらっしゃるというのは、私も議会のほうに身を投じておりましたのでよく承知しております。そういった中で、では誰に発信していたのか。それは、候補者として市民の皆様に発信をしていたつもりです。市民の皆様が、説明がないことに関して大きな不安を持っていたらっしゃる。そして、説明をしてほしいという声がある。これはなかなか私も気がついてなかったんですけども、選挙カーというものに乗って、朝倉全市を短期間で回るわけです。日頃行かないようなところにも行きます。そういったところで、あまりにもそういった声が多いので、私はやはり

これだけ市民の方が不安に思っているということを気がついていなかったんだなと、選挙戦になってそのことに初めて気がついていなかったということに、選挙戦で気がつきました。そして、それを候補者の一人として、はっきりと発信すべきだと考えました。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） そのことについては、また後ほどお話をしたいと思います。

選挙期間中に中島市長は、4番議員のユーチューブに出演、それからまたセンキョタイムズというユーチューブの番組にも、マンション建設反対と訴えておりました。去年の9月頃のセンキョタイムズでは、4番議員も出演して、4番議員が一般質問で懲罰を受けた経緯など話されておりました。

中島市長、私も含めた数名の議員が顔写真も出され、誤解を受けるような内容を流されて大変困りました。多分、中島市長もそうだったと思っております。当時、誤情報拡散され、我々もいわれなき批判はもちろんのこと、市役所、議会事務局への苦情の電話など殺到して、業務に支障を来す状況となりました。私は大変驚きました。我々が批判を浴びるきっかけとなった先ほどの番組に、選挙期間中に出演してマンション建設断固反対と言ったのか、その理由をお聞かせいただきたいと思えます。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私もセンキョタイムズで非常に残念な思いをしたといえますが、対象として残念な思いをしたことは議員時代にありましたので、センキョタイムズというのは非常に激しいといえますか、そういったとんがった番組だなというふうに感じておりました。

そして、選挙期間中に朝倉市内をずっと回っておりまして、街頭演説も至る所でしました。しかし、一番感じましたことは、人がいないんです。街頭演説をしても、聞いてくれる方がいません。商業施設の中に入って街頭演説をするということではできないので、今から私が自分の考えを訴えても、どれだけの人たちに訴えられるだろうかということを随分悩みまして、そういった中で、やはり衆議院選挙でも一定の効果が見えたようなSNSを使うのが、一番効率よく自分の考えを訴える手段であると、これは使わないといけないというふうに思いまして、SNSの活用を考えました。

そして、センキョタイムズ——これは、すみません。固有名詞を言っていないか分かりませんが——この番組に関しましては、出演のオファーがあったときに、自分としては、そういういらない議論を起こすような蜂の巣をつつくような、そういった内容は本意ではないと。だから、そういったことは言わないでくれと。自分がどういうことを考えているかということをただ単に訴えたいんだということを言いまして、番組の方はそのようにしてくれたと思っております。もちろん、相手候補の誹謗中傷とかは絶対にやめてくれと。そういうことをお願いして、出演を決めたという経緯があります。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 先ほどのお二方の4番議員のユーチューブの件もございますが、私が見た感想を申し上げますと、非常にこの2つの番組をきっかけに、非常にSNS上で、マンション問題が非常にいろんな情報が拡散していたという番組にあえて出演するというその行動が、結局、マンション問題をもっと世間の皆様に、SNSを使って、先ほど街頭演説ではなかなか伝わらないと、SNSを使ってやるというのがそういう戦略だったとは思いますが、あえてそこに出るのが、そのことには、私はどういうふうに、我々から見たら非常に不審に思ったというのが感想です。

そのSNSで出ることが、私は、先ほど言いましたそれはSNSの反応を見越した発信だったというふうに私の中では結論づけていますけれども、そのことに対してはどうでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私が一番訴えたかったのは、市民の皆様はこの外資系マンション問題については納得していないんだなというふうに思いまして、やはりきちんと説明をしていく、情報公開をしていく。そして、市民の皆さんに寄り添いますよ、そういったスタンスが候補者として必要なのかなと、それを訴えていたつもりです。そして、SNSが結果として加熱したかどうかというのは、私は選挙戦のときは分からなかったんですけども、一生懸命でそんな見る暇がありませんでしたので。ただ、それについては、私がその動きといいますかムーブメントをつくり出そうと思ってもできるものでもありませんし、それは自然になっていったんだろうなと思います。それだけ市民の皆様、世間の皆様の関心が高かったんだろうなと。ちょうど、今も続いておりますけれども、外国人の方と我々従来から住んでいる日本人の方の距離感の問題というのは、非常に社会でも問題になっていますので、それだけ社会の関心が高いんだろうなと、そういうふうに考えています。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 分かりました。

しかしながら、マンション問題が白紙になった状況がございました。その中で、選挙期間中に、建設に賛成か反対か、市も市民も真っ二つに分かれているような情報をSNSで拡散をされていました。つまり、事実に基づかない情報が拡散し、突然選挙の争点として際立っておりました。選挙後も、マンション建設反対派市長誕生とかSNSの勝利だなどと流れていました。

中島市長は、そのような状況になったのは選挙期間中は分からなかったとおっしゃっていましたが、このことについてどう感じてありますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 選挙期間中は本当に分かりませんで、反響の大きさというのはびっくりしたというのが本当のところなんですけれども、一つのSNSというものが、社会を動かす力があるんだろうなというのは思いました。ものすごいこれは力なんだなと。そ

れを個人の皆様が、今誰もが持っている。それって社会にとって、私はすばらしいことではないかなと考えています。

そういったものがありまして、私は、先日、私が登庁する数日前に、林市長のほうからこの問題は白紙になりましたという声明が出ましたけれども、私は選挙期間中のところは、確かに白紙になったとは実は思っておりませんで、やはり、私も多分市民と同じような形で、この問題というのは実際どうなっているんだろうなというような、少し納得ができないような、心配がまだ残っているような、そういった気持ちを持っておりましたので、あえてそれを寝た子を起こすというような形ではなく、私と同じようなことを市民の皆様も感じているんだろうなと、納得をしていない、不安なんだろうなとそう思いまして、選挙戦の中で説明責任それから情報公開を、市長になったら進めていきたいなと、そういうことを訴えさせていただきました。

まとめますと、SNSというのは非常に大きな力があって、それは社会を動かすような大きな力が、今は厳然としてあるんだろうなとそういうふうに思っています。使い方を間違えると、非常に怖いものだなと思っていますが、逆にうまく使えば、物事を変えるいい手段なのかなというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） このSNSの威力というのは、これはすごいなと私どもも十分認知しておりますし、朝倉市の情報発信、それも含めて、今の世の中このSNSの情報のスピードというのはすごいものがあるというところで、この貴重な存在というのは十分承知しております。

市長も選挙が終わった後でしたでしょうか、新聞の記事の中にも、SNSがはまったというふうなコメントがちょっと載っていましたよね。だったんですね、これもね。この問題は、なぜ多くの市民が関心を寄せていたか。これは、やはり昨年の6月議会で、4番議員が一般質問において議場で議長の静止を聞かなかったことに対して懲罰委員会が開かれ、戒告処分になったこと。この頃から、SNS上では、マンション問題を質問したことで戒告にしたと。一部の議員はマンション建設についてはマンション建設を推進しているとか、お金をもらっているなどの誤情報が流されておりました。誤情報というよりも偽りの情報が流されておりました。このような情報がSNS上では残っておりますし、今でも流れています。

今回の朝倉市長選挙は、新聞報道でもSNS上で偽・誤情報が拡散し、選挙への影響が指摘されておりました。本来、市民は正確な情報に基づいて候補者を選ぶ権利を持っております。しかし、今回の選挙では、その権利が十分に守られたと言い難い状況が生じておりました。偽・誤情報の拡散により、市民は選挙における正確な情報に基づく判断の機会、政策本位の選挙、中島市長は3月議会、前市長ともこのことについて議論をされておりました。公平で透明な選挙環境という本来選挙で享受すべき利益の一部を失ったと私は思っ

ております。これは、民主主義の根幹に関わる問題であると。市長はこのことについてどう思いますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まず、先ほど浅尾議員がおっしゃられたように、お金の授受があったとかそういった誤情報が流れたということは、私も承知しております。

しかし、SNSというのは非常に大きな力がありまして、その影響が大きかったからといって、今回の選挙が大きく左右されたというふうには私は考えておりません。といいますのが、やはり市民の皆様皆様は、皆様の大切な大切な1票をよく考えて、そして、今回は私と林市長でしたけれども、そちらに投票をなさったというふうに考えています。そして、私が結果として市民の皆様から負託を受けて、今この市長という職を預かっている。そういった形になっていると思っております。

ですから、何か市政の方向性をそのSNSが誤らせたんだと。そういったことは、私はないのではないかなと考えております。やはり、市民の皆様は賢明でいらっしゃるので、投票という制度に乗ったその行動によって、正しい市政の在り方というのを考えて投票行動をしていただいたと、そういうふうに思っております。

ただ一方で、今、国のほうで選挙期間中のSNSの在り方というのは議論をされておりますので、それについては、市長としてまた一政治家として、動向を見守っていきたいというふうに考えています。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 中島市長のほうから選挙で勝利されたわけです。このことについて、誤情報とか偽情報、コマーシャル問題で流されて、その要因で勝ったというふうなことは、それは絶対言えないでしょう。それはもちろん十分承知した上での質問をしております。我々から見ると、そのことが際立った選挙だったということで、この質問を私はさせていただきます。

実際、そういうことが今までずっと先ほども言いましたように市民の中に浸透しておったと。SNSの力がすごかったと。この偽情報、誤情報に対するこのこと、今中島市長が言われたように、国の選挙の関係の中でもそういった規制をかけようということで、国のほうでもそういった話が今盛んにされております。恐らく、今国会で来年の統一地方選挙に向けて、国のほうでも選挙期間中に関わる偽・誤情報に関する法令は、恐らく決まっていくなだろうというふうに私は思っております。

その中で、昨年12月議会で、中島議員時代に私を含む4人の議長経験者で、朝倉市議会から国に対する意見書として、SNS等インターネット上の偽・誤情報に対する規制の強化及び誹謗中傷の抑止と被害者救済に向けた対応の強化を求める意見書を提案し、議決し、国会に提出しました。

今回の市長選挙で、実際に偽・誤情報が選挙に影響した以上——と私は思っております

ので、市としてもこの意見書に基づき条例制定を含む具体的な対策を検討すべき段階に私は来たというふうに考えております。

先ほど言いましたように、国会でもこの選挙期間中のSNS上での偽・誤情報対策の法整備に取り組んでいるとも言われておりますし、同時に、先ほどの4名の意見書もまた別の意見書として、外国法人等による土地の取得及び利用を制限するための法整備を求める意見書も私ども提出をしまして、朝倉市議会からの国のほうに出しました。

マンション問題、この問題が全国に知れ渡ったこの朝倉市——フロントランナーという表現がいいのかどうかは分かりません。しかし、全国に知れ渡ったのが事実です。この朝倉市が、この誤・偽情報に対する朝倉市の独自の条例をしくべき、私は施行すべきと強く思っておりますが、中島市長はいかがお考えでしょう。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まず、今回、浅尾議員がおっしゃる朝倉市がフロントランナーになったというのは、一つは、私はこんなことを考えています。今回の選挙で、私が街頭演説をしておりましたところ、反応してくださる方といったら変なんですけれども、若い方が多かったんです。若い方が来られて写真を撮られたりとか、動画を撮ったりとか、それから、選挙カーで回っていても、2歳ぐらいの子どもを連れての方が出てきたりとか。私、市議会議員を5期させていただきましたけど、今までそれはなかったことです。やはり、若い方が政治に関心を持っていられちゃうんだなと思ひまして、だから今回、SNSで大きく取り扱われるようになったのかなと。やはり若い方は、SNSというのは非常にデジタルネイティブといいますか、身近なものなんだろうなというふうに思ひました。

条例といいますか朝倉市として取り込むかということなんですけれども、情報の真偽につきましては、なかなか表現の自由とかがございまして、それを判断するというのは非常にハードルが高いといいますか難しいと思ひます。ただ、人権に触れていないとか、人権を擁護するとかいうようなそういった立場のものであれば、私は是非については市として研究に値するのではないかというふうに思ひしております。フロントランナーだから、本当は効果的なものを出すのが一番いいんでしょうけども、現段階で、明確に規制する法律等がございせんので、ここは研究をしまして、条例を制定することはなかなかハードルは高いのかなと。小郡市さんみたいに、人権を守っていきましょと、誹謗中止をやめましょとかそういった部分はできると思うんですけれども、真偽を規制するというのはなかなか難しいのかなと、市の段階では。これは、国会の動向を見ながら研究をしていきたいというふうに考えています。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 慎重な意見でしたね。しかしながら、私どもが12月議会、議会から意見書を出したとき、このことについてもいろいろ議論しました。議会から、国会で偽・誤情報のことを出す内容につきましても、実際そういった事実があったと、私どもは

そういう被害を被ったと。その延長線上で今回の朝倉市長選挙が行われたと、というふうに私はそういうふうに思っております。どれだけの選挙に影響を与えたか、それは分かりません。それは誰にも恐らく分からないでしょう。

先ほど市長がおっしゃいましたように、若い方の反応がよかったと、市政に対する関心が高まったと、これは非常に素晴らしいことです。それは、SNSによってそれが達成されたことであるとすれば、それは市政発展においては選挙の効果があつたと。無投票選挙にはしてはいけないと中島市長が訴えた。それは本当に正しいことだったと私は思う。しかしながら、繰り返し言いますけれども、この誤・偽情報、この問題については、国会のほうでも熱く議論をされております。実際、そういったことで選挙に与えた事例もたくさんあります。そういった意味で、今回の朝倉市はフロントランナーになったということで、決して言論の自由を妨げるものではない、正しい発信、情報、間違った情報は出してはいけませんという、SNSを使う子どもたち、若い人たちにも、朝倉市はこんなことについては真摯に取り組んでいると。そういう姿勢が、今回の市長選挙を経て、中島市長が、私は訴えるべきではないかと強く思います。

再度、答弁をお願いいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 浅尾議員がおっしゃるように、市としましては、やはりそういったSNS上は玉石混交なんですよと。ですから、それを見極める目を持ちましょうということ。それから、投稿するときには、やはり人権侵害とかにならないように気をつけましょうと。そういった啓発というのは、市としても若い方、それから市民の皆さんにすべきだというふうに考えておりますので、そういったことはやっていきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） この問題につきましてはもう質問を閉じますが、今後も今回の一般質問、中島新市長に対する所信表明、既にSNS上でかなり注目を浴びております。またその中でこういった情報が出てくるのか。これも私は実は楽しみにしております。あえて今回こういった質問を中島市長にぶつけたのも、あるいはそういう私の強い気持ちといいますか……。市民に対する情報の取扱い、これはぜひとも、今後とも市として中島市長もぜひ見ていただきたいし、私ども議会もこのことについては、十分、今後も見ていきたいというふうに思っております。

次の質問に行きます。市役所改革の進め方についてでございます。

中島市長は選挙期間中から、朝倉を変える、変化には勇気がある、挑戦できる町に、市民の手に政治を取り戻す、変わらないと失うものがあると繰り返して訴えられてこられました。また、中島市長は、就任式においても朝倉を挑戦する町にと、市民のために一歩踏み出してほしい、挑戦して失敗したとしても私はとがめないと、そして、机を叩きながら、

責任は市長が取ると力強くおっしゃってありました。

次に、4つのワードも英語で言われました。プライオリティ、シェア、チャレンジ、オープンと。ちょっと発音が私悪いんですけど、すみません。市民目線で課題を市役所全部で共有し、挑戦し、何でも話し合おうという明確なメッセージを発信されたとは思っております。この姿勢から、市長が本気で改革に取り組む覚悟を持っておられることは、私も強く感じたところではあります。

しかしながら、所信表明ではこれらの理念を行政組織としてどのように具体化し、どのような体制を構築していくのかについての説明が十分でなかったと感じております。市政運営の実行力を高めるためには、理念だけではなく、具体的な制度設計と工程が不可欠です。中島市長が言われるとおり、多様な課題を抱える朝倉市は、縦割り行政を打破し、部局横断で課題を共有し、挑戦を促す組織文化をつくることが重要だと私も思います。

そこで伺います。朝倉を変える、朝倉を挑戦する町に、市民のために一步踏み出してほしい。市長が掲げられたこの理念を、行政組織の改革としてどのようにイメージをされているのか。まずはお伺いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まずは、浅尾議員の質問の中で、ちょっとどきっとしましたのは、机を叩きながら言ったというのはちょっと申し訳なかったなと思っております。つい力が入ってしまいまして、机を叩いたというのは今の時代では許されないことだなというふうに思っておりますので、それは大変後悔しておりますし、この場でおわびをしたいというふうに考えております。

そして、まず私が考えておりますのは、私はこの町の未来をいいものにしたいというふうに考えています。でも、それは私の一人だけの力では、残念ながらできないんです。それは、市の職員の力も借りないと絶対にできませんから、市の職員の方に、今まで以上にやる気になってほしいなとそういうふうに思っております。ですからそういった意味で、一緒に、言葉が適当じゃないかもしれませんが、仲間として朝倉市の未来をつくっていきましょうということは、事あるたびに、就任してから1か月半ぐらいですけれども訴えてきております。

そういった中で、具体的にどういうふうにやるのかということで、いろいろなやり方があると思います。プロジェクトチームをつくるとかそういうやり方あると思うんですが、取りあえずはまだ1か月半しかたっておりませんので、既存の中でやっていきたいなと思っています。今の既存の体制の中でやっていきたいと思っております。形を変えるのではなくて、中身を変えるという形でやっていきたいと思っておりますので、そういった形でチャレンジしていきたいなと思っておりますので、特段、ここでこういった体制を取るかそういった目新しいことは考えておりません。現行の組織を使って十分やっていけるのではないかと、今はそう考えております。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 今の市長のお話は平たく言うと、組織の話については現状維持というふうな答えだったと思います。

しかしながら、あれだけ朝倉を変えると、挑戦する町に、市民のために一歩踏み出してほしいと職員に檄を飛ばしたあの姿から見ると、ちょっと落ち着いたといいますか。実を言いますと、私はこの組織体制の在り方については、中島市長も議員時代からいろいろ議論されてきたというのも十分承知しておりますし、全国の行政組織の中での市長の役割というのもそれぞれあると思います。今の話を聞くと、ボトムアップかトップダウンかというのがよく行政のそういう中で話が出てくるけど、やはり改革のスピードであったり職員のマインドを変えていく、新たな挑戦する組織につくり上げ変えていくには、変化を求めるには、やはり私はトップダウンの強い市長の意思とスピードが求められると私は思っている。そういう中で、現状維持ということでの市長の今の考え方というのは、市長が思われるような、私はスピード感が達成できるのかなとちょっと心配しております。このことについて、もう一度お考えをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） スピード感というのが大事だと思いますので、そこのところは意識してやっていきたいというふうに考えています。ただ、やはり職員一人一人の資質とか能力とか、それは議員として私20年間やってきたんですけど、分かっていたつもりだったんですけども、やはり一緒に働いてみると、見えてなかった部分もありますので、もう少し見極める時間が必要なのかなと思っております。

そういった中で、ボトムアップかトップダウンかということですけども、私はどちらかというボトムアップ型の市にしたいなというふうに思っております。職員一人一人がやる気になって、提案をたくさんつくってくれるような、そういった市にしたいなと思っております。その代わり、私が失敗をおそれずに伸び伸びでやってくれと、少々の外れなことを言ってもとがめませんよと。自由な、心理的な安全性というんですけども、そういった場を保証することによって、今まで遠慮していた言えなかったようなアイデアが出てくる。そして、私はその中から市長として財源の問題であったりとか方向性の問題、そういったのを判断して、私が選択と集中で取捨選択していく。そういったことをやっていきたいというふうに考えています。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 19年間の中島市長と私の付き合いですから、中島市長の性格といいますか、それも分かっているつもりであります。極端なことは嫌うのは中島市長の生き方というのも十分分かっております。しかしながら、トップになられたわけですから、市民は改革というマインドに引かれました、今回は。あなたの市長の発信、先ほどのSNSの力に期待をしての投票行動が多分あったと私は思っております。この改革のスピードに、

朝倉市が取り残されることは絶対あってはならないし、中島市長の誕生は、そういった強い改革というところのマインドを、組織の改革の中でも今後ぜひとも検討していきたいし、またそのことについては、私ども議会としてもいろいろ見させていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、次の質問に入ります。今後の財政運営の方向性についてでございます。

中島市長は、市議時代から、朝倉市の財政はこれから厳しくなると繰り返し発言をされてきました。そして、銀行出身だからと、経済が分かる市長となると断言されました。中島市長は、昨年12月議会の一般質問で、コストアップによるインフレの影響、経済収支比率が20年前は85%だったのが今はもう95%と、朝倉市の財政は硬直していると。ゆえに、政策的財源の余裕がもうないですよねということも発言をされております。

まず、執行部の答弁にも、災害関連起債の償還の影響で公債費のピークが間もなく迎えるということで、厳しい財政状況をどう乗り切っていくのかをかなり心配もしているし、財政運営に関しては、中島市長自身が、私は心配性だからということもおっしゃっておられました。

中島市長の所信表明にある「若い力の流出をSTOP!」、「企業誘致や起業支援で雇用を創出!」、「女性を応援!就労と子育ての両立を実現!」、「出前型情報公開の徹底推進!」、「朝倉ブランド化の推進!」、その他水の清らかさを守る取組、国際交流や文化事業の振興、空き家対策など、着実に進めるとも言われております。

具体的な施策については、まだほかの13名の議員がこれから一般質問していきますので、それぞれ施策についてはまた質問があろうかと思えますけども、どの施策についても、相応の財源とマンパワーが必要であることは容易に想像できます。

市長は、強く市民の声を積極的に聞く、出前市長室、対話の中に解を見つけると述べられています。しかし、議会報告会での意見交換会でも、行政支援や新規事業の要望など数多く出てくるのも経験をしておりますし、中島市長もそのことについてはよく分かっていると思います。結果として、出前市長室とかでそれもいいと思いますが、積極的な財政にならざるを得ない側面が私はあると思っております。

また、職員に対して、挑戦しなさい、失敗を恐れるなという、先ほど机を叩いたというのは申し訳ないというふうに謝罪もされておりましたけれども、それだけ力強く中島市長も職員の前で、皆さんの前でそういうふうな発言もされていまして、新規事業を後押しするメッセージに私はなっているというふうに思っております。

そこで伺いますが、新市長の財政運営につきましては、考え方として、基本的に積極財政なのか、あるいは今まで議論されてきた緊縮財政なのか。その基本姿勢をお示しいただければ、お願いしたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 非常に難しい質問なんですけれども、積極財政か緊縮財政かとい

う2つの項目、2項選択ではなかなか難しいなとは思っているんですが、やはり緊縮財政だけでは朝倉市の発展というのは望めませんので、使うべきところにはやはり積極的に財源を投入していかないといけないのかなと思っております。ですから、ありきたりの言葉ですけれども、選択と集中ということになると思います。その見極めをするために、やはり市民との対話の中で何が一番ニーズがあるのか、そういった答えを見つけていきたいというふうに考えています。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 一言で積極財政なのか緊縮財政でいくのかというので答えられるものではないというのは、十分承知の上での質問でございますが、先ほど言いましたように、市長が掲げるこの施策、目標を実現するには、積極財政にならざるを得ないということです。朝倉を変える、いろんな意味で、特に若者の流出に歯止めをかける、若者に選ばれる町にすると。雇用の創出、子育て支援の充実、特にこのことについては、選挙期間中も強く訴えられておられました。このことについては、この部分が選択と集中というふうなこととは思っております。戦略的には、積極財政に部分的にはなっていくものだろうというふうに思っておりますが、やはりこのことについては、その判断基準を示すのが市長でございますし、これからの4年間の政策の指標となるのが朝倉市総合計画であります。実際、この内容につきましては、今から議論が進んでいって、次の展開に進んでいくのはございましょうが、今、市長が所信表明で掲げられた5つの挑戦は、表現の違いはありますが、これまでの朝倉市総合計画の施策と大きな違いはございません。中島市長の政策理念、中島カラーを出すために、朝倉市総合計画で、いわゆる政策の見える化が私は必要だと思えます。このことについてはいかがお考えでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） すみません。話が少し飛ぶかもしれませんが、私は市長として、次の世代に希望のある形で朝倉市をバトンを渡したいというふうに考えています。そのためには、やはりある程度の財源の余裕がないと、やりたいことも何にもできなくなってしまいますので、財政規律というのは守っていききたいというふうに考えています。それが私の責任だと思っています。

そして、私はこういうふうに考えています。市民の対話をたくさん聞くと、要望をたくさん受けて身動きが取れなくなるのではないかと、そういう心配があるかと思うんですが、逆にたくさん聞くことによって、そこである程度、私が100聞くことによって、ふるいにかけられるのではないかとというふうに考えています。出前市長室で市民の皆様の要望というニーズを聞いて、それを聞いて、そしてふるいに私がかけて、選択と集中をする。それをするのが、逆に効率的な財政運営ができるのではないかとというふうに考えております。

すみません。質問はそれだけ……。すみません。ちょっとお願いします。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） この市長の方針というのは、総合計画の中に反映していくべき計画です。このことについてお尋ねしております。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） すみません。総合計画の中には、私の「若者の流出をSTOP！」とかそういったものは盛り込ませていただきたいというふうに考えております。市長の任期に合わせて4年ということのでつくっておりますので、それは盛り込ませていただいて、一つ一つ地道にやっていきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 先ほど、財政的な問題で答弁がございましたように、一つのワードとしてふるいにかけて。いろんな出前市長室とかに出向かれて、いろんな情報、いろんな要望とかいろんなお話を聞かれた中で、それをどういうふうに今からやっていくかということで、私はふるいにかけてというのが、一つの市長の言葉で出てきましたが、このことは、実はトップダウンなんですよね、実は。市長がいろんな施策をいろいろ皆さんから、職員の皆さんも同行しての話に恐らくなるでしょうから、そうしてくると、トップダウンの、最終的には市長が責任を持って、この施策は重点的に選択と集中でやっていくよというのが市長の最終的な形になるだろうから、私はトップダウンなのか、ボトムアップなのかというお尋ねをしたつもりでございまして、そういうふうなことでいけば、市長の恐らく思いが、どこかで出てくるはずでしょうし、そのためには、理念とか言葉だけで、今みたいなキャッチボールだけでは伝わらないんですよね。市民に対して見える化と。要するに、計画・財政そういったことを見えるようなことに努めなければならないということは、中島市長が議員時代から執行部に対して力強くおっしゃっていたこととございます。

でありますから、朝倉市総合計画、これが、今から盛り込まれていくわけですがけれども、従来の、冊子として、全てをこう網羅するような形の、恐らくあまり変わらないと思いますよ。今の市長の答弁で、朝倉市総合計画の中に施策を盛り込んでいくというのは、それなりの市長の思いがないと、重点項目であったりこのスパンの中で、この限られた期間の中で、この施策を重点的にやっていく。ひいては、いわゆるKPIまで出てくるものではないかもしれんけれども。

ひとつ話が少し飛躍するかもしれませんが、人口減少に対する総合戦略というのも今まであって、それを統合したものが、今回、今からそういうふうになっていくのかなと、そういうふうなことと思っておりますけれども、であれば、なおさらこの朝倉市総合計画というのは、やはり市長の今からの4年間、これを具体的にもっと具体的に示すべきだと思っております。そのことについて、再度、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 総合計画については、今作成中ですので、議員がおっしゃるのは

よく分かりますので、そういった形で市民の皆様に見えるような形でやっていきたいというふうには思っております。

ただ、行政を預かる側としましては、濃淡はもちろんあると思うんですけども、一通りは全部触れるといえますか、それは絶対必要なことですので、それは触れていきまして、例えばこれだけしかやらないとかそういうのは決してできませんので、そこのところは御理解いただきたいなというふうに思っております。積極的に財政を投入していった、一つのことをやっていくというのは、私も正直言って必要ですし、やりたいなとは思っているんですが、ただ、それをあまりやりすぎたりとか判断を誤ると、長期的に朝倉市の財政的な体力を弱める結果になりますので、そこは慎重に見極めていって、朝倉市の財政的な競争力を失わないような形で、財政運営のほうはやっていきたいと考えています。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 朝倉市の活性化のために、緊縮財政も必要かと思います。積極的に使うところは使うと。基金の問題も、今まで財政の見通しとかでもいろいろ議論を、朝倉市の財政の見通しについても、いろいろ議論をしてきた間柄でもございます。基金も、それなりに朝倉市はありますと私は思っております。そのことも十分考えられて、朝倉市の活性化に、ぜひとも積極的な戦略的にやっていただきたいと思っておりますので、そのことについては、今後もよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、最後に伺います。中島市長は、市民派の市長を目指す、組織、団体には頼らない、対話の中に解を見つけると述べてこられました。その姿勢自体は理解できますし、市民と向き合う姿勢として大切な要素だと私は思っております。しかし一方で、災害対策、治水、交付金の獲得、企業誘致など、朝倉市が直面する課題は、中島市長自らが国・県・企業に働きかけ、トップセールスマンとして動かなければ、前に進まない分野ばかりであります。朝倉市を取り巻く状況においても、単独ではなく、近隣市町村と連携して、地域全体で自治体間競争に生き残る市政運営が必要なことと、私が言うまでのこともなく分かっていることだと思っております。最後に、率直に今の考えをお伺ひしたいと思ひます。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 市民ファースト、市民が優先ですというのは、私の基本姿勢です。しかし、浅尾議員がおっしゃるように、国・県との連携というのは不可欠なもので、必要なものだというふうに考えております。これは守っていかなければなりません。ですから、そういった意味では、私はずっと市議をしておりましたので、県・国とのパイプは、林市長に比べたら弱いかもしれませんが、それは私の努力によって、これから補完していきたいというふうに考えております。日々の実務とそれと行動といえますかそういったことで、国・県の理解を得ていきたい。それを獲得していくのが、市長である私の仕事だと思っております。

○議長（小島清人君） 13番浅尾議員。

○13番（浅尾静二君） 中島市長の誕生を契機に、今までの前市長とのスタイルがまた変わってくるのだろうというふうにも感じております。中島市長も、そのことについては十分感じておられると思います。

今回、私の一般質問は、冒頭の挨拶の中でも申し上げました、今までの中島市長との付き合いの中で、今回のマンション問題に関しての選挙の在り方、これについて、私は疑義があるというふうなことでの話をさせていただきました。これが、また今から政策論争をお互いにしていく中で、この疑念を少しでも私はこの一般質問で晴らしたかったと思って、この質問をしつこく取り上げさせていただきました。無礼があったかとは思いますが、許していただきたいと思っております。目的は、朝倉市の発展です。朝倉市活性化のために、市長として今後の立ち振る舞い、我々市議会に対しても積極的にその情報を公開し、今後とも朝倉市発展のために、お互い力を合わせて頑張っていければというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 13番浅尾静二議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午前10時50分に再開いたします。

午前10時40分休憩